



珍しいグレイギーとカウフマニアナの交雑種 撮影／奥野 達夫

チューリップ 四季だより

2001. 夏号
Vol.19

『シルクロードのチューリップ』

福光美術館館長 奥野 達夫

砺波のチューリップフェアが五十回を迎えるということで、見直しの企画委員会が持たれた。会議が終わって、県の野菜花卉試験場の浦島さ

んから、「チューリップのふるさは中央アジアにあるんですよ。」と教えてもらった。

おりしも、チューリップテレビの



▲アルマティのギリシャ正教寺院と天山山脈

開局十周年記念事業を手伝っていたので、シルクロードにチューリップの原種を求めてという、ドキュメント番組の提案をしたところ、それは面白いということになった。

それまでも、富山県チューリップ優良品種認定委員をデザインナーと広報の立場から二十年以上務めてきたので、園芸品種とはちがう野生種に興味があり、取材を兼ねたツアーに自費で同行することに

した。
平成十二年四月十



▲クロッカスではここが東限

倍もあるのだから。見渡す限りの草原で、中国の三国志で登場する名馬・汗血馬の産地でもある。立派な馬を駆る少年たちも見かけた。

ちよつと危険なキルギス国境の天山山脈沿いを千五百キロ、ロシア製のひどい車に揺られて走破した。アンナ博士の勝手知ったるポイントでは次々と、初めて見る花たちに出会えた。万歩計では一日二万歩を記録したが、なだらかな丘あり、岩場あり、溪谷ありで一様ではない。

雪解け直後の斜面にはアイリスやクロッカス、アリウムなどが咲き、チューリップの原点ともいわれるカウフマニアナが満開であった。湿地を好み、英名ではウォーター・リリーとも呼ばれる。

乾燥した台地には鮮やかな黄色や

二日に、世界的なナチュラリストでもある新和ツリスストの富山稔常務の案内で成田、モスクワを経て、カザフスタンのオアシス都市アルマティへやつのことで到着した。百万都市でロシア人が多い。目前に六千メートル級の天山山脈が迫り、氷河が美しい。

現地でも二十年間も生活しながら、チューリップなど球根類の研究を続けてきた、アンナアイバシエンコ博士が迎えてくれた。

彼女はオランダでも講師を要請されるなど、世界が注目する原種の植生についての第一人者でもある。

それにしても、カザフスタンには広い。日本の七



▲ルビー色のカウフマニアナ



▲レッドヒルのグレイギーの群落

オレンジのコルパコウスキアナが花園を作っていた。
熊や狼が出没する谷間にはヒマラヤ雷鳥ともいう雪鶏の姿もあり、可憐なチュウリップ・トルケスタニカがひっそりと咲く。
ふつうは上品な茶花のようなレモ

ンイエローのカウフマニアナに、非常に珍しいとされる鮮やかな紅赤の花も見つけた。何百種もある園芸種でも見たことのない澄んだ色彩である。何とか持ち帰りたいと思ったほどである。
大トルコ帝国の支配下のときにお

そらく宮廷の花園用に移されたことであろう。
ジンギスカンは、チュウリップに興味が無かったのかも。
圧巻はグレイギーである。背丈は、二五センチ、花の形はまさにチュウリップそのものである。
花びらも、真っ赤な色も神々の造形と呼びたいほど、生命感にあふれている。これから二百種もの園芸品種が生まれたという話にも、うなずけた。分球ではなく、二百粒の種で増え、咲くまで年数はかか

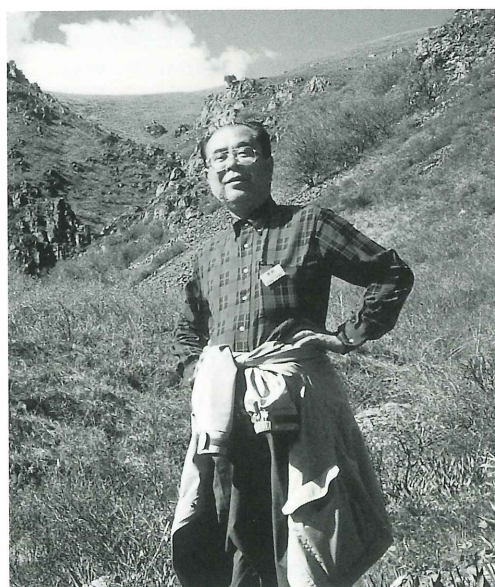
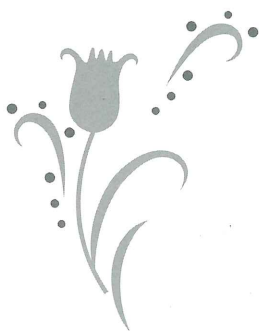
るがいったん花をつけたら二十年以上咲き続けるという。

新品種は何代もの交雑を重ねているから、劣化しやすいという。これらの原種の持つている遺伝子情報をもっと富山でも生かせないものかと素人ながら痛感した。

チュウリップの原種は約百四十種といわれ、中央アジアにその半数があり、なかでもカザフスタンだけで三十四種存在する。

立山連峰とそっくりの環境。球根類の宝庫のこのフィールドは、まさにチュウリップのふるさとであり、未知の情報がいっぱいある。(外国のテレビカメラが入ったのは初めてのこと。)

見渡すかぎりのグレイギーの丘は半日いても去りがたかった。富山のチュウリップにかかわってきた人たちと再び訪れたい。



略歴

あくの たつお

一九四〇年 富山県福光町に生まれる。

一九五五年 デザイナー尾山外誉治氏に四年間師事、あわせて

県立雄峰高校通信制卒業。

富山市・朝日印刷紙器、

自営、オタケスタジオ等。

一九六五年 株・電通入社、広告企画制作を担当。

ジャパンエキスポ、まな

びピア、緑化祭、食祭と

やま等のイベントを担当。

二〇〇〇年 五月、電通東日本富山支

社次長で定年退社。

六月より福光美術館館長。

編集・制作

富山がわかる本、花の路
とやま、まんがしあわせ
勝負、とやま裏方反省記。

第五十回 2001となみ チューリップフェア レポート

去る、四月二十五日から五月六日までの十二日間、砺波チューリップ公園を中心に、記念すべき第



▲オランダから移設した風車

たチューリップの開花も順調に進み、ここ数年の中でも最も美しく、また、期間中の晴天のおかげもあって、プレイベント期間も含めて三十五万人を超える来場者がありました。



▲メイン花壇

第五十回の記念行事の一つとして、砺波市の姉妹友好都市及びチューリップが縁で交流する各都市による『チューリップサミット IN TONAMI』が開会式の前日、四月二十四日に開催されました。トルコ共和国ヤロバ市、中華人民共和国盤錦市、オランダ王国リッゼ市、カナダオタワ市、アメリカ合衆国バーリントン市と当砺波市の六都市の代表が集まり、「国際親善に果たすチューリップの役割」及び「花を活用した都市づくり」をテーマに各都市から事例発表が行われました。

リッゼ市からはキューケンホフ公園のチューリップ祭りやフラワーパーレードとチューリップ産業について、

『チューリップサミット IN TONAMI』

50th Tonami Tulip Fair Tulip Summit in Tonami

花の国際親善宣言

Declaration of International Goodwill Through Flowers

1. 私たちは、花や緑を大切にし、人に優しい地球環境の保全に努めます。
1. 私たちは、花の研究、生産、観光を通して、世界の人に花を愛する文化を推進します。
1. 私たちは、チューリップの魅力の世界の人に伝えとともに、花を通した国際親善に努めます。

1. We will value flowers and plants, and make efforts to keep our environment sustainable.
2. We will emphasize the importance of loving flowers, flower research, flower production, and the use of flowers in the sight-seeing industries.
3. We will inform the world of the great charm of tulips and try to promote international goodwill through flowers.

以上、となみチューリップサミット会場において、互いに確認し、宣言する。

We affirm these three articles and declare international goodwill through flowers at the Tulip Summit in Tonami.

2001.4.24

となみチューリップサミット参加6都市

The six cities participating in Tonami Tulip Summit.

安念鉄夫

Japan Tonami

Mayor of Tonami.

Yahya

Republic of Turkey Yahya

Mayor of Yahya.

平空

People's Republic of China Panjin

Deputy Mayor of Panjin.

Heleen

Kingdom of the Netherlands Heleen

Manager of the General Affairs Department.

David Aride

Canada Ottawa

Vice President of Canadian Tulip Festival.

Roger Gus "Gus" Jiradoma

United States of America Burlington

Mayor of Burlington.



また、オタワ市からはカナディアンチューリップフェスティバルと国際交流について、バーリントン市からはスカジットバレーチューリップフェスティバルとチューリップをはじめとする産業について発表がありました。

そして、相互に意見交換が行われた後、サミットの最後に、“花や緑を大切に、人にやさしい地球環境の保全に努め、チューリップの魅力の世界に伝えるとともに、花を通じて国際親善に努めることをお互い確認し合う”という内容の「花の国際親善宣言」が全ての参加国の合意のもと採択され、終始和やかな雰囲気のもとに閉幕しました。



▲第2会場の140万本のチューリップ畑

そうして、相互に意見交換が行われた後、サミットの最後に、“花や緑を大切に、人にやさしい地球環境の保全に努め、チューリップの魅力の世界に伝えるとともに、花を通じて国際親善に努めることをお互い確認し合う”という内容の「花の国際親善宣言」が全ての参加国の合意のもと採択され、終始和やかな雰囲気のもとに閉幕しました。



▲チューリップ四季彩館「世界のチューリップ展」より

『一四〇万本の チューリップ畑』

今年初の試みとして、メイン会場の砺波チューリップ公園より約三キロメートル離れた砺波総合運動公園周辺に第二会場として、四・六ヘクタール一四〇万本のチューリップ畑がお目見えしました。チューリップ公園より一足早く見ごろとなった会場は、まさに一面の花畑となり、公園の花壇とは一味違った、自然の中の美しいチューリップ畑が見られました。

『催し物あれこれ』

例年以上に美しい花に恵まれた第



◀「ホワイト・シュガー・ガーデン」
(四季彩館内)

五十回のチューリップフェア。五十回記念特別企画展「世界のチューリップ展」や「下保昭展」をはじめ、毎年華やかさを増す花のじゅうたん「タピ・ドウ・フルー」、約四〇〇名もの市民が参加した「チューリップ踊り」の他、青空コンサートなど多彩な催しが行われ、節目の年にふさわしいフェアとして、盛況のうちに閉幕しました。

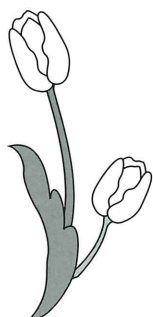
チューリップ物語

「チューリップブーヨーロッパを狂わせた花の歴史」より

オランダで十七世紀半ばに、トルコにおいて十八世紀初頭におこったチューリップ熱(チューリップ狂時代)については、四季だよりも以前にご紹介しましたが、フランスやイギリスにおいても同じ頃、熱狂的に受け入れられていたとの記述があります。

一九九九年にイギリスでアンナ・パヴォード氏によって書かれ、その年のベストセラーとなった「The Tulip」は、従来ほとんど紹介されていなかったヨーロッパへ伝わる以前のトルコでのチューリップ事情やトルコとオランダ以外のヨーロッパの国々でのチューリップ熱など、今まであまり知られていなかったチューリップの歴史的な流れも詳しく記載されています。

その訳本の中から興味深い内容についていくつかご紹介します。



『ヨーロッパへの拡がり』

チューリップがヨーロッパに導入された時期を記録したものはありません。十六世紀中ごろになって初めて、当時ヨーロッパの学問の中心地だった都市を回ってそれぞれの土地で育てられた植物について記述した植物の目録を作ったりする植物学者、栽培家、医者が現れます。

チューリップは、いったん導入されると急速に広がっていきます。ヨーロッパでチューリップが最初に咲いたのは、一五五九年のアウグスブルク(ドイツ)だと記述されています。一五六二年までにアントワープ(ベルギー)に、一五八三年にはベルギーの他の場所、一五九〇年までにはクルシウスによってライデン(オランダ)で、一五九六年までにはミドルブルクとルツェルン(スイス)で、一五九八年までにはモンペリエ(フランス)でも見られました。

『トルコとイスラムのチューリップ』

トルコにおいてチューリップは、オスマントルコ帝国の後半期に特に繁栄し、織物やタイル、細密画のモチーフとしても盛んに用いられました。しかし、作者不明の「イスタンブールのチューリップの庭の本」に、一〇五五年、セルジューク・トルコがバグダットに進入する以前に、「サーライ・ラレ」(牧場のチューリップの意味)がイスタンブールで知られていたと記述されていることが紹介されています。

十八世紀初頭のイスタンブールの最も重要な栽培家、メフメット・ラレザリの著書「花の手引き」によると、良質なチューリップの基準として、六枚の花弁は長く同じ長さであること、それぞれの花弁の間には隙間がなくしっかりと閉じていること、ブレイクしている(斑入りの)多色のチューリップは白地のもののほうが黄色のものより好まれること等々二十の項目が挙げられています。

トルコでは槍のように細長い形を、イギリスでは半球形を完璧な花の形と考えていた点が、両国で決定的な違いでした。



▲当時トルコで人気のあったチューリップ「ローマ人の槍」
トウルハン・バイト著「イスタンブール・チューリップ」復刻版(砺波市発行)より



▲オランダ・キューケンホフ公園

『イギリスで人気のチューリップ』

十六世紀中ごろからヨーロッパに広まったチューリップは、各国でブームがおこる中、イギリスでも一六八〇年から一七二〇年にかけて、チューリップ栽培が爆発的に盛んになりました。

初期のチューリップ愛好家たちは、花卉の色の変化や変わった模様を作り出そうと努力し、後期の愛好家たちの最優先基準は花の形でした。彼らは、花を箱に入れるなど様々な工夫を凝らして、彼らが完璧だと思われる形、半球の形にしようとししました。

『フランスで人気のチューリップ』

フランス人は、特に注目すべき植物としてチューリップに目をつけ、チューリップは単に庭を飾るためだけに存在しているのではなく、栽培することにも価値があると認めたヨーロッパで最初の人々でした。

はじめ、フランスが中心であったチューリップの交易は、次第にフランス人からオランダ人の手に移っていきますが、十八世紀中頃までフランス文化が他を圧倒しており、社交界では、フランス語が用いられるなど、チューリップに関するあらゆる知識のよりどころとして、長い間フランスが優位にたっていました。このことを反映して、この時期の多くのチューリップに「ラ・クロン・アンペリアル（皇帝の王冠）」のようなフランス語の名前が付けられています。

フランドル産のチューリップがフランスでチューリップ熱を生み出すが、それは、オランダ人がチューリップ熱のために自滅してしまうより二十年前のことでした。

宗教上の迫害を受けた新教徒（ユグノーと呼ばれ、熱心な栽培家でもあった）がフランスを逃げ出し、イギリスなどに移住することになり、その移住地でチューリップの栽培が活発に行われるようになります。

『チューリップ王国オランダへ』

「オランダと言えばチューリップを連想するのは、アメリカと言えばハンバーガーを連想するようなものだが、オランダ人は、ヨーロッパのチューリップ物語の中で最初に何かやったとは主張できない。」と述べられています。

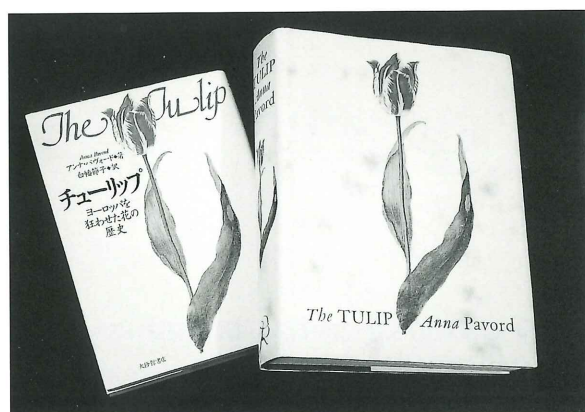
十九世紀末までの長いチューリップの歴史の中で、花の特徴は何度も変化がありました。その間、チューリップは常に珍品であり、植物学者にとっては驚異的でした。まず、花の宝石と考えられ、ヨーロッパ中の裕福な人々や流行に敏感な園芸家

が育てる上流好みの花でした。その後、今度は趣味の花になり、フランス、フランドル、イギリス、スコットランドの栽培家が賞賛する華やかな花となり、彼らの手によって完成の域に達しました。

一方、オランダ人は、根気強く熱心にチューリップの球根生産と販売に努力し、チューリップの交易で最後に勝利するのは自分たちだと確信していました。その後、彼らによって花壇で大量に植える花として、また、切り花として売買され、大きな利益が生み出されます。そして、オランダはチューリップの産業化に成功し、現在のようなチューリップ大国を築き上げたのでした。

ここに紹介した内容はほんの一部であり、本文にはチューリップに関する歴史や栽培、文化の流れについて詳細に記載がなされており、興味深い情報もたくさん盛り込まれています。チューリップや花に関心のある方、又ない方でもぜひ一読ください。

◇引用文献／チューリップ アンナ・パヴォード著 白幡節子訳
大修館書店 本体定価 三千二百円 A5版三〇四頁



▲右 アンナ・パヴォード著 The TULIP
左 同上 白幡節子訳 大修館書店

チューリップ四季彩館
からのお知らせ

○夏季特別企画展

「キャシー中島のキルト物語」
～花いっぱいのキルト達～

チューリップをはじめ、花々をモチーフとしたキルト
作品約100点を展示します。

と き 8月4日(土)から19日(日)

◇期間中入場料

大人・高校生 500円(前売券400円)

ところ チューリップ四季彩館ホール

小・中学生 300円(前売券250円)



『キャシー中島トークショー』

と き 8月4日(土) ①午前11時～
②午後1時30分～

ところ 展示会場内
※トークショー終了後、先着100名様に限り
サイン会あり。

『パッチワーク講習会』

と き 8月11日(土)・12日(日) 両日共午後1時から3時

ところ 展示会場内

◇講師：長谷 ^{ながたに}みどり先生(スタジオK講師)

◇定員：各20名

◇材料費：5,800円(税別)



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP GALLERY

(財)砺波市花と緑の財団

〒939-1381 砺波市中村100-1 ☎(0763)-33-7716 FAX(0763)-33-0090

URL <http://www.city.tonami.toyama.jp/>

<http://www.tulipfair.or.jp>

2001年7月発行